平成29年度 自己評価・学校関係者評価(中学部) 報告書

岐阜県立中濃特別支援学校

学校番号 113

自己評価

学校教育目標	・いろいろな人と関わり、地域で豊かに生活する力を育てる。	
評価する領域・分野	・中学部:「教育活動・学習指導」「安全管理」	
現状及びアンケート	・教育方針、家庭との連携、教職員・授業、学校独自項目において「よい」	
の結果分析等	という評価が平均90%以上あった。	
	・交流や連携、学習指導、防犯防災対策の項目において昨年度より評価が高	
	まった。特に、交流、教職員への親しみ、基礎的基本的な力を付ける指導	
	防犯防災対策の項目は、平均5%高まっている。	
	・「いじめ」「体罰」において「分からない」、「進路に関する情報提供」	
	で、「やや当てはまらない」「当てはまらない」が若干増えた。	
今年度の具体的かつ	① チームによる記録表を元にしたPDCAサイクルにそった授業実践	
明確な重点目標	② 生徒の安心・安全を守る指導体制の充実及び関係諸機関との連携の推進	
重点目標を達成する	① 学部授業研究会。各学年研究グループによる授業研究会。研究を支える会。	
ための校内組織体制	② 学年会・学部会。校内連携会議及び関係諸機関連携会議。	
目標の達成に必要な	① 生活単元学習で、全生徒の記録表を作成し、全グループが授業公開する。	
具体的取組	研究会で成果と課題を明らかにし、授業力を高める。	
	② ヒヤリハット届により、原因と今後の対応を明らかにする。部会で共通理	
	解を図り、今後に生かす。生徒の安心・安全のために、	校内や外部と連携
	し、組織的に問題に対処する。	
達成度の判断・判定	① 記録表の作成と授業公開により、PDCAサイクルの	授業づくりが浸透
基準あるいは指標 し、成果と課題が共有され、授業改善ができたか。		
	② 生徒の安心・安全のために、連絡帳の入れ間違い等の事	事故が減少したり、
	校内や外部機関と情報や対策の共有を進めたりすること	とができたか。
取組状況・実践内容等	① 4つの研究グループで、研究を進めた。記録表を活用し	、全グループが研
	究授業を行った。授業後には、有効な手立てや課題、改善	善点を話し合った。
	② 事故やヒヤリハットを学部会や電子掲示板で公開し原因と対策を交流し	
	た。校内連携会議や関係諸機関連携会議を必要に応じて開催し、情報と対	
	策の共有を進め、組織で問題に対応した。	
評価の視点		評価
① PDCAサイクルにそった授業づくりにより、生徒の変容が見られたか。。		ABCD
② ヒヤリハットの交流や関係諸機関との連携により、生徒の安心安全が守れたか。		ABCD
成果・課題		総合評価
	そったチームによる授業づくりができた。生徒が仲間と関わ	
りながら意欲的に学習に取り組み、基礎的基本的な力を伸ばした。 ABCD		
○連携会議寺を囲して情報を共有し組織的に対応することができた。		
▲次の授業に生かせるよう、改善策をより具体的にする必要がある。		
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	がなく連絡帳の入れ間違いの事故も減少したが、校舎内の捜	
索があった。		E 11 11 1 2 12
来年度に向けての	① 記録表への改善策の書きぶりを示し、どう改善するかを具体的にする。	
改善方策案		
付きを学部会で交流する。ヒヤリハットに気づく目を養い、事故を防ぐ。		

学校関係者評価 (平成30年2月5日実施)

意見・要望・評価等

- ・ヒヤリハット、連携に気を使っている。
- ・情報の共有は大切なことだと感じた。